

順位	氏名（議席）	発言の要旨	答弁者
15	吉川 隆之（10）	<p>1. 良好な環境に配慮した公園や緑道における樹木の管理体制について</p> <p>富士市には、市内の各所に公園が整備されており、良好な都市環境や子供たちの遊び場などとして利用している。また、富士駅の北側には、旧身延線の跡地を利用した富士緑道が整備され、通勤、通学や市民の交流の場としての利用や、町なかでの良好な緑地環境が感じられる施設としての利用のほか、災害時における延焼防止や避難路としての役割があると聞いている。</p> <p>本市においてこの富士緑道は、とても貴重な施設であるが、最近では、富士緑道を歩く際に、木々が高く伸び過ぎたところが多く周囲から見えにくくなり、暗くて怖いと感じるなどの声がよく聞かれる。</p> <p>これらの声のとおり、公園や緑道における樹木の管理については、定期的な樹木の剪定や除草のほか、防除作業を行っているようだが、整備された当時から長い年月が経過し、樹木が大きくなり過ぎて、安全性や視界が悪くなり防犯上好ましくない状況が表れている。</p> <p>また、昨年には富士総合運動公園付近の道路で倒木による事故が発生したことなどから、大きくなり過ぎた樹木については、剪定のほか伐採などを積極的に進め、その後においては新しい樹木の植栽や、大きくなり過ぎない樹種への変更などを図り、安全で維持費のかからないように改善すべきと考えるが、以下について当局に回答を願いたい。</p> <p>(1) 市で管理している公園等における樹木の管理状況について。</p> <p>① 公園や緑道における樹木について、どのような維持管理をしているのか伺います。</p> <p>② 過去3年間で高木を伐採した本数及び公園数はどのようになっているか、また、どのような経緯があり、伐採対応することとなったのか伺います。</p> <p>③ 定期的に伐採を行っているところもあるようだが、将来を見据え維持費がかからないよう、現在の高木を低木や草花に変更することで、視界を確保し、安全性を向上させることが必要と感じているが、その考えはあるのか伺います。</p> <p>(2) 通勤や通学など、多くの市民の利用がある富士緑道の管理状況について。</p> <p>① 貴重な施設である富士緑道について、大きくなり過ぎた樹木の現状を市は把握しているのか伺います。</p> <p>② 常に多くの市民の利用がある富士緑道においては、安全な利用を図るために重点事業として、計画的に対策を進めることが必要であると思うが、その考えはあるのか伺います。</p>	市長 及び 担当部長

順位	氏名（議席）	発言の要旨	答弁者
16	太田 康彦（31）	<p>1. 田子の浦港の観光拠点整備について</p> <p>令和元年11月15日、田子の浦港は、みなとオアシスとしての登録が完了しました。みなとオアシスとは地域住民の交流や観光振興を通じた地域の活性化に資する「みなと」を核としたまちづくりを促進するため、平成15年に制度が設立されています。住民参加による地域振興の取組が継続的に行われる施設として、国土交通省港湾局長が申請に基づき登録するものであり、令和6年4月21日現在、全国161か所の港湾が登録されています。</p> <p>静岡県内の港湾では7港、東部では田子の浦港、沼津港、下田港が登録し、様々な取組が続けられています。そして、沼津港、下田港はそれぞれに特色あふれる港の活用を展開し、広く全国へ発信し続けています。</p> <p>田子の浦港においても、かつての工業港としての機能に特化した港から、広く市民に親しまれる港への転換が進んでいます。富士山しらす街道や田子の浦漁協食堂、さらに本年度は漁網倉庫の移転に伴うプロムナード整備が着手されています。</p> <p>そこで、田子の浦という日本人にとって歴史的にも大変重要な存在であり、私たちの貴重な財産を将来にわたり資源として存続、発展させていくためにも、以下質問していきます。</p> <p>(1) 田子の浦港の観光拠点としての整備や事業として、ポートフェスタの開催やみなとオアシス登録の成果など、これまでの富士市の取組状況を伺います。</p> <p>みなとオアシスの制度は、地域住民の交流のみならず観光振興さらには災害支援、あるいは飲食、物販という商業機能まで及びます。同時に、広報業務、他のみなとオアシスとの連携が実施すべき業務として明記されています。</p> <p>(2) 田子の浦港と沼津港、下田港との連携について、また、それぞれのみなとオアシス設置者である沼津市や下田市との協力や連携についての取組はありますか。</p> <p>富士市と沼津市戸田、下田市は幕末のディアナ号の軌跡につながる歴史的な結びつきがあることは、昨年私の一般質問においてしずおか遺産への登録、さらには日本遺産への取組を求めているところでもあります。</p> <p>沼津市戸田では戸田みなと祭りがあり、下田市でも玉泉寺を拠点に歴史を伝える事業が重ねられています。</p> <p>(3) 富士市においても、沼津市、下田市との連携を強化し、港と幕末の史実を活用して観光振興につなげることを進めていくべきと考えますが、いかがでしょうか。</p> <p>ディアナ号が伝える史実を多年にわたり継承していくために、祭りへの招待や小学生の史跡巡りなどの取組があります。富士市においては田子浦地区のみなと祭りやポートフェスタなどの機会を捉え、郷土に記された史実を継承していくことが必要と考えます。</p>	市長 及び 担当部長

順位	氏名（議席）	発言の要旨	答弁者
16	太田 康彦（31）	<p>(4) 地域の祭りや港を舞台としたイベントにおいて、毎年継続した伝承活動を盛り込むことについての考えを伺います。</p> <p>本年4月、田子の浦港の観光振興について要望活動を行ない、その中で幾つかの提案をさせていただきました。各事業の目指すところは田子の浦港をさらに活用すること、そして回遊性、港間の連携、ストーリー性を付与することにあります。</p> <p>(5) 来年はディアナ号救助から170周年、2026年には田子の浦港開港から60年を迎えます。大きな節目となる年を飾るべく、将来に向かって田子の浦港の持続的な発展が約束されるような取組を開始する時が来ていると思いますが、富士市としての取組を伺います。</p>	市長 及び 担当部長

順位	氏名（議席）	発言の要旨	答弁者
17	荻田 丈仁（28）	<p>1. 「自転車に乗ることが 楽しくて 笑顔になるまち ふじ」の実現について</p> <p>富士市では、かねてより自転車走行空間の整備や駐輪場の適正化、市民の自転車利用環境の整備について取り組んできており、令和3年10月には、富士市自転車利用総合計画の理念を継承した、富士市自転車活用推進計画を新たに策定している。この計画では「自転車に乗ることが 楽しくて 笑顔になるまち ふじ」を目指す姿に掲げ、自転車を活用したまちづくりやサイクルツーリズムを推進している。現在、自転車を活用したまちづくりにおいて、本市を拠点とするプロサイクリングチーム、レバンテフジ静岡の活動支援やクリテリウムのチャンピオンを決定するサイクルロードレース、富士クリテリウムチャンピオンシップの開催を通じ、自転車競技振興及び本市の観光振興はもとより、本市が自転車を活用したまちづくりを進めているというイメージが全国に発信されている。また、本年、官民連携による富士山南麓地域におけるサイクルツーリズム環境創出社会実験が行われたところであるが、その実験結果に基づいた形で、自転車のまちとしての取組が今後さらに進むことが期待される。</p> <p>「自転車に乗ることが 楽しくて 笑顔になるまち ふじ」の実現に向けては、これらの取組と並行し、自転車に乗る人が快適に走行できる道路環境の整備や自転車に乗る人のマナー向上を図ることも必要であると考え。本市では、自転車利用者の安全が確保され、安心して快適に走行できる環境を整備するため、富士市自転車走行空間ネットワーク計画を令和7年度に策定することになっているが、計画策定以降の整備となると時間を要することが懸念される。</p> <p>また、車社会である本市としては、市内全域において道路利用者の安全が確保され、皆が安心して利用できる道路の整備及び安全対策が求められている。特に市内東部地域においては、交通量の多い根方街道における危険箇所への安全対策は急務であるほか、自転車を活用した地域づくりの推進として、本市と沼津市の東西を結ぶ主要道路である市道吉原沼津線のサイクリングコースとしての環境整備は強く求められているため、早期の着手を期待したい。これらのことから、「自転車に乗ることが 楽しくて 笑顔になるまち ふじ」の実現に向けては、自転車に乗る人はもちろん、自動車の運転手や歩行者にとっての環境整備に向けては、まだまだ改善の余地が残されている状況であるとともに、このことは裏を返せば、数々のポテンシャルを秘めている状況であるとも考えられる。さらに、自転車の事故を減少させていくことはもちろん、事故が起きたときの被害を軽減させるためにも、自転車に乗る人の交通ルールへの遵守意識やマナーの向上は必須であると考え。しかしながら、昨年4月から、自転車走行時におけるヘルメット着用が努力義務化されたにもかかわらず</p>	市長 教育長 及び 担当部長

順位	氏名（議席）	発言の要旨	答弁者
17	荻田 丈仁（28）	<p>ず、自転車の活用を掲げる本市におけるヘルメット着用率が向上しているとは感じられない。また、議会や関係団体からもヘルメット着用の努力義務化への対応は求められていたが、現状として大きく変わったのかは疑問が残る。このような中で、自転車乗車時における交通違反への取り締まりを強化する改正道路交通法が今年5月に参議院本会議で可決されており、今後、2年以内の施行が予想される。このことを踏まえても、これまで以上に自転車に乗る人の交通ルールへの遵守意識やマナーの向上はもちろん、ヘルメット着用率向上に向けた具体的な対策を強化すべきであると考え。</p> <p>自転車のまちとして「自転車に乗ることが楽しくて笑顔になるまち ふじ」の実現に向けて、安全・安心を第一に、社会の変化に対応した上で、関係機関と連携した安全対策や、快適な走行空間の整備は急務であると考え、以下質問をする。</p> <p>(1) 「FUJI RIDE & CHALLENGE! 富士市の新しい走りが始まる（社会実験）」の報告を踏まえた上で、今後どのような取組を行なっていくか。</p> <p>(2) 自転車利用者の状況や自転車に関係する事故についてどのように捉えているか。</p> <p>(3) 自転車活用を進める上で、市内の道路の危険箇所への対応はどのように進めているか。特に、東部地域の県道三島富士線は自転車利用者が多く、早期の安全対策が求められるがいかがか。</p> <p>(4) 自転車走行空間ネットワーク計画を策定することにより、道路環境の整備はどのように進むのか。また、観光や歴史資源の多い東部地域には、多くの自転車利用者が訪れているが、東部地域へアクセスする上で主要となる生活道路である市道吉原沼津線も計画に採用した上で、サイクリングロードとして整備が求められているが、展望はいかがか。</p> <p>(5) 本市におけるヘルメット着用率をどのように把握し、市としてヘルメット着用への対応や推進をどのようにしてきたのか。</p> <p>(6) 多くの自治体が導入するヘルメット購入費補助制度について、導入する考えはあるか。</p> <p>(7) 改正道路交通法で青切符導入が予定される中では、既に実施されている市内の各高校における自転車マナー向上策をさらに強化すべきであると考えがいかがか。</p>	市長 教育長 及び 担当部長

順位	氏名（議席）	発言の要旨	答弁者
18	鈴木 幸司（16）	<p>1. 防災力強化のための消防団と水防団の協力等について</p> <p>消防組織法第1条に「消防は、その施設及び人員を活用して、国民の生命、身体及び財産を火災から保護するとともに、水火災又は地震等の災害を防除し、及びこれらの災害による被害を軽減するほか、災害等による傷病者の搬送を適切に行うことを任務とする」とその任務が定められている。この任務遂行のため、同法第9条第3号に基づき、富士市に消防団が設置され、同時に富士市水防団条例に基づき、富士市には水害常襲地域の河川ごとに水防団が設置されている。</p> <p>水防団の歴史は古く、昭和24年制定の水防法第5条を根拠法令としており、同条第2項には「水防管理団体は、その区域内にある消防機関が水防事務を十分に処理することができないと認める場合においては、水防団を置かなければならない」とある。</p> <p>防災力強化は喫緊の課題だが、限られた予算の中で最大限の効果を発揮させるための施策について、以下質問する。</p> <p>(1) 富士市消防団員準中型自動車免許取得費補助金交付制度に基づき準中型自動車免許を取得した者は何名いるか。</p> <p>(2) 若い団員で構成される富士市消防団員確保対策プロジェクトの成果は。</p> <p>(3) 冠水現場での交通整理で活躍する水防団員の姿が市のウェブサイト上に掲載されているが、その活動の根拠法令等を伺う。</p> <p>(4) 平成17年水防法改正により創設された水防協力団体について、富士市での指定状況はどうか。</p> <p>(5) 水防団が設置されていない河川において、新たに分団を増設する考えはあるか。</p> <p>(6) 水防法第5条第2項にあるように、富士市水防団は補完性原則に基づき設置されたと考えるがいかがか。</p> <p>(7) 水防団と消防団の定員充足状況を伺うとともに、両者の協力体制はどのように構築されているのか伺う。</p> <p>2. 災害時にも赤ちゃんを全力で守る搬送用保育器の導入について</p> <p>富士市立中央病院のウェブサイトには「静岡県の地域周産期母子医療センター（二次）として、他の診療施設からの母体搬送を引き受けさせていただき、当院小児科または県立こども病院等と連携し周産期医療にあたっております」と書かれている。</p> <p>災害時には、母体だけでなく高度な医療や特別なケアを必要とする新生児等を、中央病院や県立こども病院に転院搬送するシナリオも想定される。早産や未熟な状態で生まれた子は、体重に対して体表面積が大きいいため、体温が下がりやすいのが特徴である。また、体温を保つのに必要なエネルギーを生み出す力が弱く、結果的に低体温になりやすい傾向があ</p>	市長 及び 担当部長

順位	氏名（議席）	発 言 の 要 旨	答 弁 者
18	鈴木 幸司（16）	る。そのため、移送中や停電時など、電源が確保できない場合に使用できるバッテリー搭載の搬送用保育器の整備が必要と考えるがいかがか。	市長 及び 担当部長

順位	氏名（議席）	発言の要旨	答弁者
19	石川 浩司（4）	<p>1. 市立小中学校の修学旅行の実施方法について</p> <p>市内中学校の思い出に残る修学旅行も5月に15校全ての学校が実施し、小学校の修学旅行が来月より始まります。</p> <p>市内中学校の訪問先は京都・奈良を中心に関西方面へ出かけ、小学校は東京方面への実施と伺っております。</p> <p>コロナ禍での自粛が明け、全国の観光地には人も戻り、特に京都・奈良並びに東京などの観光都市にはインバウンドの観光客を中心に多くの方が訪れています。</p> <p>昨年より2024年問題とされていた時間外労働時間の制限による貸切バスやタクシーなど輸送サービスの運転士不足などから、去る5月17日付の報道では、東京都町田市の公立中学校が京都市内で利用するバス等を手配できず、直前に修学旅行の内容が変更となる事例もありました。このような事例は他人事ではなく富士市内の中学校でもいつ起きてもおかしくない状況です。</p> <p>このような急な変更が修学旅行で起きるということは、楽しみにしていた児童生徒たちにとっても、安心・安全な実施に対し不安が残ります。</p> <p>学校行事である修学旅行でこのようなことが起きないように、現地での行動も含め安心・安全な思い出に残るよう、今後富士市としてどのような取組をし、対応をしていくのかについて、以下伺います。</p> <p>(1) 現在の小中学校の修学旅行の行き先及び実施時期について伺います。</p> <p>(2) 修学旅行の行き先はどのような手順で決定しているのか伺います。</p> <p>(3) コロナ禍以降、物価の高騰やバス代の値上げなどにより旅行費用の増加が見込まれるが、上限などは決めているのか伺います。</p> <p>(4) 修学旅行は各学校の裁量で決定していると考えますが、教育委員会としては、現在の状況から見て、今後の修学旅行に対する懸念材料は持っているのか伺います。</p> <p>(5) 現在の状況は、修学旅行の実施方法、例えば行き先（交通手段）、実施時期、金額などを見直すよい機会と考えるがいかがか伺います。</p> <p>(6) 修学旅行などの学校行事で富士市を離れる際には、児童生徒の身分証明書（健康保険証）をどのように取り扱っているのか伺います。</p>	市長 教育長 及び 担当部長